

GBP / JPY ポンド円 月次レポート

前月振り返りと2026年7月の相場展望

発行日

July 1, 2026

対象期間

6月実績 / 7月展望

通貨ペア

GBP / JPY

発行頻度

Monthly

6月末レート（終値）

215.587

▲ +0.58%（6月月間騰落）

6月高値

215.768

6月安値

212.350

BOE金利

3.75%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

6月は**214.35円から215.59円へ小幅上昇**（月間+0.58%）。BOEの据え置きと日銀利上げが材料として交錯し、レンジ感の強い展開が続いた

BOEは6月16～17日のMPC会合で、前回会合では1名だった利上げ支持が今回は2名に増加し、**7対2で3.75%を据え置き**（発表6月18日）。英5月CPI（前年比2.8%、6/17発表）が4月から横ばいで高止まりを継続

日銀は6月15～16日の会合で0.25%利上げを決定（0.75%→1.00%）したことで日英金利差（BOE 3.75% vs BOJ 1.00% = 2.75pp）は前月比0.25pp縮小した

中東情勢を巡る地政学リスク後退を受けた原油価格下落が英国のエネルギー価格を押し下げ、7月のBOE追加利上げ期待は後退。次回7/30会合では据え置き見通しが優勢

7月 基本シナリオ レンジ

211 – 217円

BOE（7/30）と日銀（7/31）の前後開催が焦点（確率50%）

日英政策金利差

2.75pp

日銀利上げで前月比0.25pp縮小。依然ボンド優位

始値
214.347
6月1日

高値
215.768
月中最高値

安値
212.350
月中最安値

月間騰落
+0.58%
+1.240円

6月の相場動向

6月のポンド円は**214.35円でスタートし215.59円まで小幅上昇**（月間+0.58%）。BOEが6月16～17日のMPC会合で**7対2で3.75%の据え置きを決定**（発表6月18日）。一方で日銀は6月15～16日の会合で0.25%利上げを決定し、日英金利差は2.75ppへと0.25pp縮小した。

英5月CPI（前年比2.8%、6月17日発表）は4月から横ばいで、インフレの粘着性が意識された。ただし中東情勢の落ち着きに伴う原油価格の下落が英国のエネルギーコストを押し下げており、7月以降のCPI鈍化への期待も台頭。月中の安値212.35円は、日銀会合前後の円高局面で記録した。

主要イベントの影響

GB BOE 6月16～17日 MPC会合（発表6/18）

7対2で3.75%を据え置き（前回8対1から変化）

英5月CPI前年比2.8%（6/17発表）。前月と横ばいで高止まり

原油価格の落ち着きを受けてインフレ鈍化期待が台頭

JP 日銀 6月15～16日 利上げ

0.75%→1.00%へ0.25%利上げ、7対1で決定

日英金利差が3.00pp→2.75ppに縮小

利上げ直後には212円台まで円高・ポンド安が進む場面もあったが、その動きは限定的だった

6月の総括

6月のポンド円は**日英金利差2.75ppのポンド優位が下値を支えつつも**、日銀利上げによる金利差縮小と地政学リスク後退に伴う市場環境の変化が上値を抑えた。月間+0.58%と小幅高。7月は**BOE（7/30）と日銀（7/31）が連続開催**となり、両中銀の発言内容次第でポンド円の方性が決まる局面となる。

7月の注目ポイント

7月の焦点は①**7月30日 BOE MPC会合**（エネルギー価格の落ち着きを背景にインフレ鈍化の余地が広がる中、市場では据え置き見通しが優勢。利下げ議論への転換があるかが注目点）、②**7月31日 日銀会合**（追加利上げ観測は低確率だが、発言次第でポンド円に大きな影響）の2点。特にBOEとBOJが1日差で開催されるため、BOEがよりハト派な姿勢を示し、日銀が引き締め継続を示唆すれば、日英金利差の縮小が意識され、210円を割り込むリスクもある。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	BOE据え置き・日銀据え置きで金利差維持、ポンド高継続	215 – 219円
 基本	50%	BOE・日銀ともに現状維持でレンジ内推移	211 – 217円
 弱気	25%	BOEがハト派転換・日銀追加利上げ示唆でポンド円急落	206 – 213円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
BOEが7/30で利下げ示唆・ハト派転換	中	ポンド安	原油価格の落ち着きなどを背景にインフレ鈍化が進めば、利下げ議論が意識されポンド売り要因となる。日英金利差の縮小も意識されやすい
英6月CPI（7月中旬発表）の大幅鈍化	中	ポンド安	エネルギー価格下落の影響が反映され、CPIが2.0%前後まで低下すれば、BOEの利下げ観測が強まる可能性がある
日銀が7/31に追加利上げを示唆	低	円高	日英金利差が2.75ppから縮小する方向性が鮮明になれば、210円方向への急落リスクが高まる
英国経済指標（GDP・PMI）の上振れ	低	ポンド高	エネルギーコスト低下が英消費や製造業活動を支えれば、景気改善期待からポンド買いが優勢となる可能性がある

7月の見通し

基本シナリオは**211～217円のレンジ推移**（確率50%）。日英金利差2.75ppがポンドの下値を支えるが、エネルギー価格の落ち着きを受けて英インフレ鈍化が進み、BOEの利下げ観測が強まるリスクがある。**7/30 BOE、7/31 日銀**と1日差で重要会合が続くため、双方向の値動きが強まる可能性がある。英CPI・賃金データの確認後にポジションを検討することが重要。

用語解説

BOE（英国中央銀行）

Bank of Englandの略称。現在3.75%。6月のMPC会合では7対2で据え置きを決定。次回会合は7月30日。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月会合で1.00%に利上げ（1995年以来の高水準）。次回は7/31。市場では次回利上げ時期を年後半とみる向きが多い。

政策金利 / 金利差

政策金利ベースの日英金利差はBOE 3.75% – BOJ 1.00% = **2.75pp**（前月比0.25pp縮小）。引き続きポンドの下値を支えているが、縮小方向には注意が必要。

MPC（金融政策委員会）

BOEの**政策金利決定機関**。9名の委員で構成される。6月会合では7名が据え置き、2名が0.25%利上げを支持した。賛否構成の変化は今後の政策スタンスを読むうえで参考となる。

英国CPI（消費者物価指数）

ONS（英国国家統計局）が発表する**英国のインフレ指標**。5月分は前年比2.8%（6/17発表）。その後、原油価格やエネルギー価格の落ち着きが续けば、7月以降の鈍化要因となり得る。

中東情勢と原油価格

中東情勢の変化は原油価格を通じて、英国を含む各国の**インフレ見通しや中央銀行の政策判断**に影響を与えることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。